

OPINION

中部経済新聞

私は現在、ケニア労働省、国立生産性・競争力センター(NPCC)で生産性主幹オフィサーを務めています。2022年7月から9月まで、日本の研修コースを無事に修了した後、ケニアでは生産性向上、すなわち「カイゼン」

7thゲーター

を国の公共サービス全体で推し進めることになりました。NPCCは旗振り役として400を超える政府省庁や公的機関のカイゼン活動を支援しています。

JICAの知識共創プログラム(KCCP、以下「研修」)の中で得た経営コンサルティ

日本への期待
世界各地から

其
101

政府・公的機関の「カイゼン」を支援

ングに関するものをケニアでの活動で実践し、私の修了時の「マネジメント」に関する行動計画を実現する機会となりました。

改善した経営指導により関係組織の業績が向上しました。NPCCではリーン哲学に基づいて各種のカイゼン技法や手法を採用し、製品の生産やサービスに関する効率と資源の有効活用をはかってきました。最終目的は事業コストを削減し、顧客に高品質な製品やサービスをタイムリー

ケニアから

に提供する能力を強化することです。

日本での研修は、私たちの指導方法に新たな局面を提供してくれました。現在、多くの担当者が共通のアプローチを採用し、ケニアの企業や公的機関にこの方法を伝えていきます。達成された主要な項目を紹介します。

カイゼン活動を通して、400を超える省庁・関係機関で進行中の公共サービス生産性改善に取り組んでいます。NPCC職員による教育で能

業組織全体の業績が向上することを目的としました。

日本に望むことを2点挙げます。まず経営コンサルティンクとは、専門家による助言と戦略的な支援を通じて、組織効率と効果を高めることです。これは深い分析、問題解決、技術的訓練、対話スキルを必要とするダイナミックな分野です。しかしNPCCには現在、職員向けの基本的な生産性向上実践者研修、認定制度がありません。このため、NPCC職員が日本での研修を受けられないことがあり、

コンサルティングサービスを提供するために、職員のコンサルティング能力の専門性を向上させました。企業管理職の能力、企業組織と管理システムを強化し、人事制度と能力開発を改善し、そしてケニアと、アフリカ全体にと

っても長い道のりになると思われます。公共サービスの合理化を測定、管理、向上させられるようなカイゼン戦略の導入と展開を可能にするまでには長期間かかります。この点で日本には、ケニアの公共サービスに特化するカイゼン研修を設定してほしいと要望します。改善がもたらす効率、効果、雇用創出、公共サービスの提供強化、廃棄物削減と資源活用による環境の持続可能性、資源利用の効率などを強調した研修であれば願います。

【エドワード・ニヤクンデ
イ・オウエンガ、リム中産
連】
(月曜日に掲載)